

HEM-Net 関係者の著書・論文・その他

1. 滝口雅博：航空機による患者搬送の現状と将来、医学のあゆみ、175 (10) : 755-759、1995
2. 小濱啓次：災害医療 災害後3日間までの状況と問題点、医療49巻増刊 : 285、1995
3. 滝口雅博：定期便による長距離患者搬送の現状、日本救命医療研究会雑誌 (1341-6782)、9 : 25-29、1995
4. 西川 渉：なぜヘリコプターを使わないのか—危機管理システムの核心、中央書院、東京、1996
5. 滝口雅博：現代医学の生と死 救急ヘリコプター、総合臨床、45 (1) : 114-119、1996
6. 滝口雅博：航空機による患者搬送の現状と将来、宇宙航空環境医学、33 (1) : 43-47、1996
7. 小濱啓次：私が考えるプレホスピタルケアの未来像、救急医学、21 (1) : 91-93、1997
8. 滝口雅博：プレホスピタルケアをめぐるその他の話題 救急ヘリコプター、救急医学、21 (1) : 95-97、1997
9. 滝口雅博：国際救護搬送の現状と問題点、日本災害医学会会誌、45 (4) : 239-246、1997
10. 滝口雅博：ヘリコプターによる患者搬送に関する医学的及び制度上の検討、岩手医学雑誌、49 (6) : 635-639、1998
11. 小濱啓次：クローズアップ先端医療 ヘリコプター救急医療、ナーシング、19 (8) : 100-103、1999
12. 滝口雅博：航空機内環境と生理変化、Biomedical Perspectives、8 (2) : 193-199、1999
13. 益子邦洋、他：NPO法人「救急ヘリ病院ネットワーク」の設立について、プレホスピタル・ケア、12 (4) : 17-19、1999
14. 益子邦洋、他：NPO法人救急ヘリ病院ネットワーク (HEM-Net) 設立の経緯と将来展望、救急医療ジャーナル、44 : 22-24、2000
15. 小濱啓次：救急搬送体制 ドクターヘリ、臨牀と研究、77 (8) : 1496-1502、2000
16. 加来信雄：救急搬送体制 わが国の搬送体制の現状、臨牀と研究、77 (8) : 1488-1492、2000
17. 浅井康文、他：有珠山噴火における重症患者多数発生の場合の道内および道外への搬送体制、北海道医報、950 : 12-14、2000
18. 益子邦洋、他：救急ヘリ病院ネットワーク (HEM-Net) の立ち上げとこれからの展望、日本航空医療学会雑誌、1 (1) : 47-52、2000
19. 益子邦洋、他：救急医療用ヘリコプター搬送システムの構築と将来の展望、日本臨床救急医学会雑誌、3 (3) : 309-314、2000
20. 原 英義：ドクターヘリ<沖縄サミット待機>、救急医療ジャーナル、46 : 21-25、2000
21. 辺見 弘、他：ヘリコプターによる救急搬送、日本外傷学会雑誌、15 (4) : 304-305、2001
22. 滝口雅博：航空機による患者搬送と生理変化、日本医事新報、4012 : 105、2001
23. 西川 渉：ヘリコプターは銀座通りにも着陸できる、日本航空医療学会雑誌、2 (2) : 7-13、2001
24. 小濱啓次：ヘリコプター搬送の現状と展望、病院設備、44 (5) : 597-602、2002
25. 滝口雅博：地域救急医療と救急ヘリコプター、エマージェンシー・ナーシング、15 (4) : 328-333、2002
26. 浅井康文、他：へき地・離島における北海道の医療支援の現状と展望、へき地・離島救急医療研究会会誌、3 : 46-51、2002
27. 原 英義：社会システムとしてのドクターヘリ運航に向けて、救急医療ジャーナル、55 : 19-23、2002
28. 野口 宏、他：救急医療の現場から ヘリコプターによる高度救命医療システム、現代医学、49 (3) : 449-452、2002
29. 浅井康文、他：航空機内の救急体制に関する現状と展望、International Association of Traffic and Safety Sciences、27 (3) 217-224、2002
30. 加来信雄：海外からの患者搬送 (医療帰省)、臨牀と研究、79 (4) : 606-610、2002
31. 國松孝次、他：鼎談；わが国におけるヘリコプター救急の将来像、プレホスピタル・ケア、16 (5) : 1-15、2003
32. 小濱啓次：ドクターヘリ、へるす出版、東京、2003
33. 浅井康文：スイスの航空医療の現状、北海道医報、1010 : 14-16、2003
34. 益子邦洋、他：千葉県ドクターヘリ活用の実績と展望、病院、62 (4) : 321-325、2003

35. 滝口雅博：救急ヘリコプター搭乗要員教育のあり方について、交通科学研究資料、44：86-89、2003
36. 浅井康文、他：北海道における救急医療体制の構築、交通科学研究資料、44：82-85、2003
37. 辺見 弘：大規模災害の発生から初動期の対応、臨床と薬物治療、22 (3)：174-178、2003
38. 小濱啓次：ヘリコプター搬送の展望、臨床と薬物治療、22 (3)：196-199、2003
39. 浅井康文、他：航空機による患者搬送と救急体制、Medical Gases、5 (1)：7-12、2003
40. 益子邦洋：東名高速多重玉突き事故の検証 - 2機のドクターヘリが活動した意義と今後の課題 -、アスカ21、48：10-11、2003
41. 浅井康文、他：へき地・離島への、北海道の医療支援の現状と展望、へき地・離島救急医療研究会誌、4：16-23、2003
42. 西川 渉、他：独逸ヘリコプター救急制度の淵源、日本航空医療学会雑誌、5 (2)：29-38、2004
43. 浅井康文、他：北海道におけるへき地・離島救急医療の展望、へき地・離島救急医療研究会誌、5：34-39、2004
44. 田伏久之、他：近畿地区6府県における救急ヘリ搬送の現状と展望、日本航空医療学会雑誌、5 (1)：39-48、2004
45. 益子邦洋、他：外傷システム構築におけるドクターヘリの意義、日本航空医療学会雑誌、5 (2)：12-17、2004
46. 國松孝次：日本の社会と安全、泌尿器外科、18 (臨増)：379-380、2005
47. 西川 渉：高速道路着陸問題の経緯と展望：高速道路への着陸は可能か？ 日本航空医療学会雑誌、6 (1)：3-7、2005
48. 益子邦洋：HEM-Netが目指すヘリコプター救急体制、アスカ21、14 (1)：10-11、2005
49. 浅井康文：北海道の航空医療とそのはばたき、はばたき、全国航空防災協議会、7：7-15、2005
50. 國松孝次：ヘリコプター救急システムの構築をめざして、へき地・離島救急医療研究会誌、6：4-10、2005
51. 益子邦洋：重度交通事故患者の救命を可能にするドクターヘリ、アスカ21、14 (2)：10-11、2005
52. 浅井康文：広域搬送、病院前救護とメディカルコントロール、医学書院、東京：296-297、2005
53. 益子邦洋：ますます進化し続けるドイツのヘリコプター救急体制、アスカ21、14 (3)：10-11、2005
54. 浅井康文、他：ロシアからの重症熱傷患者の経験、日本熱傷学会会誌、31 (2)：44-49、2005
55. 小濱啓次：救命救急センターにおけるドクターヘリ運航に関する調査、日本航空医療学会雑誌、6 (2)：44-47、2006
56. 國松孝次：ヘリコプター救急のシステム設計と運動論、日本救急医学会雑誌、17 (8)：317、2006
57. 田伏久之、他：大災害時における救急ヘリ搬送体制の重要性について、日本集団災害医学会誌、10 (3)：259-269、2006
58. 滝口雅博：スイス・ベルン州の救急搬送体制について、プレホスピタル・ケア、19 (2)：57-62、2006
59. 小濱啓次：ドクターヘリの現状と効果について、病院設備、48 (2)：134-136、2006
60. 益子邦洋：ドクターヘリの役割とその有効性、日本病院会雑誌、53 (5)：66-75、2006
61. 國松孝次：これからの医療改革と「救急ヘリ」、日本職業・災害医学会会誌、54 (臨増)：106、2006
62. 西川 渉：救急ヘリコプターの安全を読む、日本航空医療学会雑誌、8 (1)、6-14、2007
63. 小濱啓次、他編：ドクターヘリ；導入と運用のガイドブック、メディカルサイエンス社、東京、2007
64. 浅井康文：自然災害、ドクターヘリ 導入と運用のガイドブック、メディカルサイエンス、東京：206-211、2007
65. 小濱啓次：救急医からみた救急医療をめぐる諸問題とその対策、救急医療ジャーナル、15 (3)：25-33、2007
66. 浅井康文、他：北海道における救急医療の連携、交通科学研究資料、48：115-117、2007
67. 益子邦洋、編：プレホスピタルMOOK 3 エアレスキュー・ドクターカー、永井書店、大阪、2007
68. 浅井康文、他：ドクターヘリと消防・防災ヘリによる救急医療活動連携、国土交通、国土交通省、79 (7)：66-67、2007

69. 魚谷増男、小濱啓次：対談「ドクターヘリ措置法」の成立と地域救急医療体制、近代消防、45 (9) : 46-49、2007
70. 西川 渉：諸外国のエアレスキューの歴史、プレホスピタルMOOK3 : 3-15、2007
71. 益子邦洋：特定非営利活動法人救急ヘリ病院ネットワーク (HEM-Net) の活動、プレホスピタルMOOK3 : 103-113、2007
72. 小濱啓次：ドクターヘリの法制化と新しい救急医療体制の構築、日本医事新報、4337 : 81-84、2007
73. 國松孝次：日本の救急医療と危機管理体制、Journal of Cardiology、50 (Suppl.1) : 215、2007
74. 西川 渉：へき地医療におけるヘリコプターの役割、へき地・離島救急医療研究会誌、8 : 6-8、2007
75. 益子邦洋：救急ヘリ導入促進法案、通常国会で審議大詰め、アスカ21、16 (1) : 10-11、2007
76. 小濱啓次：ドクターヘリと消防防災ヘリとの協力体制の現状と将来のあるべき姿、日本航空医療学会雑誌、8 (1) : 2-5、2007
77. 小濱啓次：救急医療用ヘリコプター特別措置法と新しい救急医療体制の構築、日本航空医療学会雑誌、9 (1) : 7-15、2008
78. 浅井康文、他：北海道における、へき地・離島における救急医療の確保、へき地・離島救急医療研究会誌、9 : 28-32、2008
79. 國松孝次：ドクターヘリ (救急医療用ヘリ) 本格普及への課題、交通科学研究資料、49 : 20-21、2008
80. 滝口雅博：救急・応急のための基本手技 傷病者の輸送法、Medical Practice、25 (臨増) : 404-410、2008
81. 小濱啓次、編：救急医療改革－役割分担、連携、集約化と分散－、東京法令出版、東京、2008
82. 益子邦洋：救命率向上のためのドクターヘリ・ドクターカーの導入、救急医療改革、東京法令出版、東京、145-160、2008
83. 國松孝次：スイスに見る『自治』のひとつのかたち スイス航空救助隊 (REGA)、日本航空医療学会雑誌、9 (2) : 33、2008
84. 益子邦洋：日本版ADAMSとACNを整備し、交通事故死者数の更なる削減を、アスカ21、17 (1) : 10-11、2008
85. 小濱啓次、他編：フライトナース実践ガイド、へるす出版、東京、2008
86. 浅井康文、他：2000年沖縄サミットの経験と2008年北海道洞爺湖サミットの展望、ER Magazine、5 (2) : 316-322、2008
87. 小濱啓次：ドクターヘリ総論I:ドクターヘリの必要性と現状、今後の展望、日本航空医療学会ドクターヘリコプター講習会テキスト、P1-7、日本航空医療学会、2008
88. 浅井康文、他：北海道洞爺湖サミットと救急医療、北海道医報、9:22-25、2008
89. 小濱啓次：ドクターヘリ、交通の百科事典、編集 (社) 日本交通科学協議会、丸善、東京、2008
90. 益子邦洋：ドクターヘリと外傷センターの整備で交通事故死者数を5千人以下に、アスカ21、17 (2) : 10-11、2008
91. 浅井康文、他：洞爺湖サミットの救急医療体制、救急医療ジャーナル、93 (16) : 56-57、2008
92. 益子邦洋：ドクターヘリの効果、フライトナース実践ガイド、pp13-19、2008
93. 浅井康文、他：北海道洞爺湖サミットと救急医療、Emergency Care、21 (10) : 85-91、2008
94. 西川 渉：ドクターヘリにホイストを、日本航空医療学会雑誌、9 (2) : 107、2008
95. 浅井康文、他：2008年北海道洞爺湖サミットにおける救急医療態勢の計画と経験、日本集団災害医学会誌、13 (2) : 153-157、2008
96. 岩貞るみこ：命をつなげ!ドクターヘリ、講談社、東京、2008
97. 益子邦洋、他：災害医療におけるドクターヘリの活用、救急医療ジャーナル、16 (1) : 30-37、2008
98. 篠田伸夫：わが国ドクターヘリの「これまで」と「これから」、ドクターヘリ&レスキューヘリ (イカロス出版) : 88-89、2009
99. 浅井康文：高速道路事故、災害医学、改訂2版、南山堂、143-148、2009

100. 小濱啓次：新しい救急医療体制の構築 救急医療体制改善のための提言、へるす出版、東京、2009
101. 浅井康文、他：北海道における交通事故への救急医療、日本交通科学協議会誌、8 (2) : 3-9、2009
102. 小濱啓次：総説；広域救急医療体制構築の必要性、日本航空医療学会誌、10 (1) : 3~4、2009
103. 西川 渉：ドクター・ヘリ―“飛ぶ救命救急室”、時事通信社、東京、2009
104. 岩貞るみこ：エンジンスター！ 講談社、東京、2009
105. 小濱啓次：へき地・離島医療への提言 - へき地・離島医療は医師の原点である、救急医学、33 : 861~862、2009
106. 浅井康文、他：北海道、救急医学、7 (33) : 815-820、2009
107. 小濱啓次：地域における救急医療の現状と在り方、自治フォーラム、598 (7) : 4~12、2009
108. 益子邦洋：ドクターヘリの病院間連携と集約化における有効性、新しい救急医療体制の構築、pp 125-164、2009
109. 西川 渉：ドクターヘリの現状と展望、BIO Clinica、24 (9) : 837-842、2009
110. 浅井康文、他：災害派遣医療チーム (DMAT)、北海道医報、9 : 20-21、2009
111. 益子邦洋：ドクターヘリの活用、地域政策研究、47 : 50-56、2009
112. 岩貞るみこ：テイクオフ！ 講談社、東京、2009
113. 國松孝次：ヘリコプター救急の普及を目指して、岩手県立病院医学会雑誌、49 (1) : 57-58、2009
114. 小濱啓次：わが国における病院前救急診療の歴史、救急医学、33 (5) : 499-502、2009
115. 益子邦洋：本質を見誤ったドクターヘリ導入の議論、アスカ21、18 (3) : 10-11、2009
116. 浅井康文、他：北海道 (根室・釧路地域) における救急医療体制について、へき地・離島救急医療研究会誌、10: 62-65、2009
117. 益子邦洋、他：事故自動通報システム (ACN) が起動するドクターヘリシステム、2009年春季大会フォーラム : 14-18、2009
118. 西川 渉：ドクターヘリ発足から10年 量的な拡大から質的な充実へ、新医療、37 (11) : 126-129、2010
119. 浅井康文、他：北海道からの災害医療の発信と展望、北海道医報、1 (1096) : 14-18、2010
120. 岩貞るみこ：フライトナース ハナ、講談社、東京、2010
121. 小濱啓次：ドクターヘリの過去、現在、未来、日本救急医学会雑誌、21 (6) : 271-281、2010
122. 西川 渉：ドクターヘリのすすめ―日本の救急医療体制を補強する、ていくおふ・Winter : 16-23、2010
123. 益子邦洋、國松孝次：ドクターヘリによる救急救命体制の拡充整備、日本の航空100年、(財)日本航空協会編、2010
124. 國松孝次：ドクターヘリの制度設計、日本外傷学会雑誌、24 (2) : 141、2010
125. 益子邦洋、他：事故自動通報システム (ACN) が起動するドクターヘリシステム構築の必要性、救急医学、34 (5) : 533-537、2010
126. Nishikawa W et al: An overview of the development of helicopter emergency medical services in Japan, Air Med J. 29 (6) : 288-91, 2010
127. 岩貞るみこ：フライトナース ハナ2、講談社、東京、2010
128. 益子邦洋：攻めの救急医療 15分ルールをめざして―脚光をあびるドクターヘリの真実―、へるす出版、東京、2010
129. 益子邦洋、他：ドクターヘリを運用する病院が抱える問題、月刊新医療、37 (11) :130-133、2010
130. 石川博敏：イベントデータレコーダ (EDR) による傷害予測と救急救命活用への期待、救急医学、34 (5) : 529-532、2010
131. 益子邦洋、他：ドクターヘリの導入による救急医療の変化と今後の展望、公衆衛生、74 (12) : 1018-1023、2010
132. 石川博敏：イベントデータレコーダ (EDR) の現状と課題、エンジンテクノロジーレビュー、October 2010

133. 西川 渉：北海道における飛行機救急の調査研究結果、日本航空医療学会雑誌、11 (2) 200、2010
134. 益子邦洋：東日本大震災におけるドクターヘリDMATの活動、アスカ21、20 (2)：10-11、2011
135. 浅井康文、他：北海道におけるヘリコプターと固定翼の連携、日本交通科学協議会誌、11 (1)：21-27、2011
136. 小濱啓次：特別企画；地方政治の使命；ドクターヘリで地域医療が変わる。第三文明、616：30～32、2011
137. 滝口雅博、他：ドクターヘリ講習会第20回を終了して、日本航空医療学会雑誌、12 (1)：26-33、2011
138. 國松孝次：ドクターヘリと私、日本集中治療医学会雑誌、18 (Suppl)：108、2011
139. 小濱啓次：災害時におけるドクターヘリによる傷病者（患者）搬送。災害対策全書第2巻応急対応、五百旗頭 真、室崎益輝、編、公益財団法人兵庫震災記念21世紀研究機構、災害対策全書編集企画委員会、ぎょうせい、東京、2011
140. 岩貞るみこ：救命救急フライトドクター 攻めの医療で命を救え！ 講談社、東京、2011
141. 浅井康文：北海道における航空搬送の展望（ドクタージェット）、アスカ21、20 (3)：6-7、2011
142. 益子邦洋：韓国とタイの医師・看護師が、日本でドクターヘリのOJT研修、アスカ21、20 (3)：10-11、2011
143. 石川博敏：デルタVと傷害程度に関する検討、自技会交通事故傷害予測と予防・医療に関する検討委員会、2011年11月14日
144. 益子邦洋、他：ドクターヘリの現在とこれから：日本版15分ルールを目指して、エマージェンシー・ケア、24 (4)：88-89、2011
145. 益子邦洋：事故自動通報システムとドクターヘリを活用した交通事故死者数削減の取組み、アスカ21、20 (4)：10-11、2011
146. 小濱啓次：東日本大震災におけるドクターヘリ活動（2011.3.11～17）（第1報）、日本航空医療学会雑誌、12 (1)：63-74、2011
147. 小濱啓次：新しい救急医療体制の構築、病院、70 (11)：839-844、2011
148. 益子邦洋：先進事故自動通報システムによるドクターヘリ出動の有用性を実証、アスカ21、21 (1)：10-11、2012
149. 滝口雅博、他：座談会；東日本大震災をふまえた災害時の救急について、プレホスピタル・ケア、25 (2)：18-28、2012
150. 益子邦洋、他：東日本大震災におけるドクターヘリの調査検討委員会報告書、日本航空医療学会雑誌、12 (3)：59-68、2012
151. 石川博敏、他：AACNとドクターヘリを結ぶシステムの開発に向けた実証実験、自動車技術会2012年春期フォーラム：18-23、2012
152. 益子邦洋、他：先進事故自動通報システム（eACN）が起動するドクターヘリ、交通工学、47 (1)：15-19、2012
153. 小濱啓次：東日本大震災におけるドクターヘリとDMATに関する調査報告（第3報）、日本航空医療学会雑誌、13 (1)：35-40、2012
154. 篠田伸夫：再び、わが国ドクターヘリの「これから」、日本のレスキューヘリ（イカロス出版）：91-93、2013
155. Kunihiro Mashiko, et al: Realising the potential; Challenges and opportunities for HEMS in Japan AirRescue Magazine, 3 : 124-126, 2013
156. 浅井康文、他：本邦初の固定翼機の研究運航事業、北海道医報、1143：17-19、2013
157. 小濱啓次、海堂 尊：救急医療とドクターヘリ、Voice5：220～225、PHP、東京、2013
158. 滝口雅博：わが国でも航空機による患者搬送は行われていた、日本航空医療学会雑誌、14 (1)：3-7、2013
159. 石川博敏：AACNの現状と課題、安全工学シンポジウム2013、日本学術会議交通事故死傷者ゼロを目指した検討小委員会、2013

160. 浅井康文、他：道南圏の救急医療における航空搬送の必要性、日本交通科学学会雑誌、54：85-88、2013
161. 國松孝次：ドクターヘリの発展の跡をふりかえって、日本航空医療学会雑誌、14(2)：46、2013
162. 小濱啓次、他：消防防災ヘリとドクターヘリの今後のあり方について、日本航空医療学会雑誌、14(3)、35-45、2014
163. 浅井康文、他：北海道の医療における固定翼機の役割、へき地・離島救急医療研究会誌、13：16-20、2014
164. 岩貞るみこ：わたしたちはいのちの守人、講談社、東京、2014
165. 小濱啓次編著：病院前救急医学、へるす出版、東京、2014
166. 西川 渉：ドイツ救急ヘリコプター発展の足跡、Helicopter Japan、220：38-41、2014
167. 滝口雅博：日本初の自衛隊ヘリコプターによる組織的救急救護搬送、日本航空医療学会雑誌、15(1)：3-6、2014
168. 浅井康文、他：道南圏における高齢者を含む、救急の現状、日本救命医療学会雑誌、28：1-6、2014
169. 西川 渉：米国ヘリコプター救急——その安全を取り戻すには、航空情報2014年11月号：54-58、2014
170. 益子邦洋、他：医工連携による外傷診療・予防研究の質向上を目指して、日本交通科学学会誌、14(2)：9-14、2014
171. 篠田伸夫、他：危機管理対談；ドクターヘリの運用実態に見る災害・事故時の救急対応の課題、エルネオス1月号：54-57、2015
172. 西川 渉：ロンドンに見る大都市のヘリコプター救急、Helicopter Japan、222：40-45、2015
173. 篠田伸夫：消防とドクターヘリの連携、消防研修第97号：60-66、2015
174. 小濱啓次：これからの救急医療 ドクターヘリ搬送 ドクターヘリの現状と今後の課題、聖マリア医学、38：22-32、2015
175. 西川 渉：REGA——アルプスの山岳地で危険な救助と救急、Helicopter Japan、223：32-37、2015
176. 益子邦洋、他：ドクターヘリと消防防災ヘリの連携体制をいかにして構築するか、Pharma Medica、33(3)：23-27、2015
177. 西川 渉：カナダのヘリコプター救急、Helicopter Japan、224：30-33、2015
178. 益子邦洋：ACN (AACN) とドクターヘリ事業、日本機械学会誌、118：38-40、2015
179. 浅井康文：北海道における救急搬送の現状 ヘリコプターと固定翼の連携、聖マリア医学、38：32-36、2015
180. Hirotoishi Ishikawa, et al: Injury Estimation in Frontal Collisions for Automobiles Equipped with EDR, SAE 2015-01-1447, 2015
181. 浅井康文：北海道における道南圏の救急医療搬送体制の今後の課題。日本交通科学医学会雑誌、56：1-4、2015
182. 益子邦洋、他：HEM-Net AACN研究会の取り組み、自技会2015年春季フォーラム；AACNの実現に向けた戦略：21-24、2015
183. 西川 渉：ヘリコプターは最良の危機管理手段、米国ICSの考え方に学ぶ、近代消防、53(6)：54-59、2015